

【女子400m障害決勝】1分1秒40の大会新をマークし、優勝した浦田真莉子(松山東)＝県総合運動公園ニンジニアスタジアム(撮影・柳生秀人)



負ける気なかった

ハードリングが荒削りなのは誰の目にも明らか。しかし、それを補って余りある走力と集中力、ポテンシャルの高さを秘めている。女子400m障害で1分1秒40の大会新をマークした浦田(松山東)は「負ける気はかけらなかつた」と言い切った。

予選は2台目のハードルで歩数が合わず、大きく失速。それでも首位で通過した。

小雨が降る中、迎えた決勝。「最初から飛ばし

たエースヒートに乗ると、と舌を巻く。今度は想定通りの歩数でハードルを越えていく。たのは、今シーズンからバックストレッチで先頭の中島(八幡浜)を抜くのと、「(中島の)ぴしゃぴしゃ」という足音を聞きながら懸命に逃げ切った。自己ベストを更新し続ける浦田は「本番は次のインターハイ。2年生のうちいろいろな経験したい」とやる気満々。飛び越えるべきハードルをクリアしていくと、どんなタイムが出るか、今比べ練習量が少ない中、集中力は本当にすごい」

(和田亮)

掲載許可番号:G20100801-00508